

キャラクターカード

参加者の方々に「ハンガーバンケット」をより楽しんでいただくため、キャラクターカードを作成しました。

参加者には会場に入る際に、先着順にて、色紙に印刷したカードをランダムに引いていただきます。所得帯ごとに色紙の色を変えて作りましょう。

高所得



「私の名前はランジャンニです」

40歳の女性で夫と2人の子どもとインドで暮らしています。私は医者で、夫は実業家です。私たちは使用人を雇い、とても大きな家に住んでいます。子どもはインドで一番の私立高校に通い、一生懸命勉強してアメリカの大学に入学することを目標にしています。

高所得



「私の名前はシャンです」

米国で暮らす35歳の中国人女性です。子どものときから、政治的な自由と仕事がある米国に行きたいと思っていました。幸い、中国では英語を勉強できる環境にいたため、米国で銀行員の職に就くことができました。仕事が空いた時間には、非営利組織で、中国からの移民の人々が安心して生活できるように援助するボランティア活動を行っています。

高所得



「私はシムチャです」

古代都市エルサレムを訪れた観光客にポストカードを販売する自営業者です。朝9時から最後の観光客が帰る真夜中まで、歩道でカードを売っています。欧米の景気が悪くなってからは旅行者も減り、あまりカードが売れなくなりました。大変なご時世ですが、自分自身の生計は十分に立てられる状態です。自営業ができることは幸運だと思っています。

高所得



「私の名前はコラシです」

以前はスロベニアで自動車工として成功をしていたのですが、3年前にフランスに来てからはうまくいかず、イタリアのレストランのシェフとして働いています。手頃な家賃の郊外の小さなアパートに住み、1時間以上かけて通勤しています。アパートには最小限の家具と小さなキッチンがあるだけですが、独身男性としては良い暮らしをしていると思います。

高所得



「私の名前はクラウドです」

ポツワナに住んでおり、金融省の役員として働いています。数年前までワシントンDCにある世界銀行で働いていましたが、国の経済を発展させるため自分のスキルを活かせるであろう母国へと戻ってきました。世界銀行で働いていたときと同じような暮らしはできませんが、それ以上に自分の仲間が多くいる街で働くことができるので、現在はとても幸せな生活を送っています。

高所得



「私の名前はホセです」

私はメキシコ出身です。私立の学校に通わせてもらい、両親はともに専門家として働いています。高校時代には都市部のスラム街でボランティア活動をしていました。現在は、大学で経済学を勉強しています。今でも、時々ボランティアをしていた頃の記憶がよみがえります。卒業後は、スラム街の人々をどうすれば助けられるかを探究したいと思っています。

高所得



「私の名前はジョンです」

両親はイタリアからの移民でした。シカゴに移り住み、兄と私を育ててくれました。私は、アルバイトや日雇い労働など、様々な仕事をしながら大学とロースクールに通い、卒業後は法律事務所を設立しました。現在は、立派な家に住み、休暇には旅行に行くことができます。私は、努力をして大学に行ったことで、高卒という差別され、働く上で不利になる経歴を乗り越え、自分の逆境を覆すことができました。

高所得**「私はマイコです」**

私は病院勤務の後、産婦人科医として、合計 9 回の海外派遣に参加しました。医師として、自分の持っている技術を役立て、より多くの命を救いたいと思ったからです。現地では、妊産婦や胎児の死など辛い経験もありましたが、医療で救われる命があることを強く実感することができました。

高所得**「私はアレックスです」**

私は、米国の金融企業の日本支社で勤務しています。会社が協賛していたことがきっかけで、オックスファム・ジャパンのイベント、「トレイルウォーカー」にボランティアとして参加しました。多くの参加者が真剣に取り組む姿勢や、地元の方の強力なサポートに感動するとともに、ボランティアの意義を学びました。今後力になれることがあれば、積極的に参加したいと思います。

高所得**「私はケンです」**

私は大学卒業後に就職し、会社員となりました。30 歳で結婚し、妻と 2 人の子どもとともに生活しています。現在、私の年収は 500 万円で、それだけでは生活に不十分のため、妻がパートで家計を助けています。最近、ローンを組んで一軒家を建てました。子どもには塾に通わせるなど一生懸命勉強をさせて、将来、よい大学に通い、裕福な人生を送ってもらうことが夢です。

高所得**「私はレイナです」**

私はアメリカのロサンゼルスに住む会社員です。パートナーと一緒に生活しています。普段は不動産取引の仕事をしなが、空いた時間に、同性愛者の権利擁護のための活動に参加しています。誰もが制約を受けずに自分らしく生きることができる社会を目指して活動しています。

高所得**「私はミンヒョンです」**

私は、在日コリアンの家庭に生まれました。勉強に励み、東京の国立大学に入学することができました。卒業後は外資系の証券会社に入社し、忙しいですが、充実した毎日を過ごしています。私には高校と大学受験を控えた弟と妹がいるので、私の稼ぎで、少しでも家計を助けることができればと思っています。

高所得**「私はウオンです」**

私は日本で生まれた中国人です。家は貧しかったため、高校までしか出ることができませんでした。料理人として修行をして、有名ホテルで料理人として働くことができました。私には 10 歳離れた弟がいて、彼には大学まで出てほしいと考えています。

高所得**「私はハルキです」**

私は、テレビ局でディレクターをしています。飢餓や紛争など世界で起きている不公正な現実をより多くの人に知ってもらいたいと考え、テレビ局に就職しました。視聴率が取れないと、なかなか国際的なニュースやドキュメンタリーの放映許可は得られませんが、深夜の時間帯などに何とか放送できるよう、日夜努力をしています。

高所得**「私はシロウです」**

私は衆議院議員です。私はもともと難民支援をしていたため、国際協力にも大変関心を持っていますが、そのような主張は、有権者の共感が得られないと思い、そうした発言はしないようにしています。国に関係なく、すべての人が、最低限度の生活を行える世界になるよう、日本がリーダーシップを発揮していく必要があると考えています。

中所得**「私の名前はダリーです」**

家族と一緒にインドに住んでいます。母が女性グループに参加する前は、子どもたちが病気になっても薬を買うお金がありませんでした。母とその友人たちは、グループの活動として、家庭を顧みない夫の問題について話し合い、また、魚の養殖・販売組合を立ち上げました。今では、女性たちは自分たちの収入を得て、村の男性による組合とも協力して仕事をしています。時々、私の父は夕食の支度を手伝っています。

中所得**「私はジョージです」**

戦争が終結したにもかかわらず、未だに暴力が蔓延しているグアテマラの高地の出身です。村に共産主義者がいる、と政府軍から疑われ、家を壊され、村から逃げ、都市部の環境が悪い地域に住むことになりました。数年前、6人の仲間とともに小規模な建築業を始めるため融資を受け、成功することができました。今では30人以上の従業員を抱え、自給自足の生活も可能になりました。

中所得**「私の名前はルルドです」**

私は、ブラジルのサンパウロの隣町に住んでおり、5人の幼い子どもがいます。夫は、私が5番目の子どもを妊娠している時に、育児と家事を私に押し付けて出て行ってしまいました。私は、長時間働くことができる織物工場を見つけて仕事をしています。子どもたちを育てることができるギリギリのお給料はもらえますが、子どもたちと過ごす時間はわずかありません。

中所得**「私はベケレです」**

私は、エチオピア南部に家族で住んでいる農民です。私はオックスファムが支援する地元の組合から、330ブル(約1万2千円)のお金を借りて初めて牛を飼うことができました。以前は手作業用の農具で耕作するのに7~8日は掛かりましたが、仲間と協力して牛を使って、4~5時間で作業ができるようになりました。今年はさらに大規模な耕作を行い、十分な作物を育てて、一回目のローンを返済するための利益が出ると期待しています。

中所得**「私の名前はローレンスです」**

私は香港の公営住宅で、両親と8人の兄弟・姉妹と一緒に暮らしています。私たちは12平米の小さな家に住んでいます。私は法律を勉強するために奨学金を受給することができ、とても幸運でした。いつの日か、たくさんのお給料を稼いで、自分のアパートへ引越す日を楽しみにしています。

中所得**「私の名前はロメオです」**

私は13歳のときグアテマラを離れ、よりよい仕事を得るため、2年かけてアメリカへ移住しました。しかし、フロリダの労働環境は厳しいです。1日にバケツ125個分(2トン近く)のトマトを収穫しなくてはなりません。稼ぎは50ドル(約4千円)です。私の住む家は家賃が高い上、アメリカ人が受けられるような福利厚生はありません。

中所得**「私の名前はメルセデスです」**

私は20歳で、エクアドルの首都であるキト郊外の小さな町に、両親、兄弟と住んでいます。父は旅行者相手に宝石や服など様々な商品売る街の行商人です。私は父の手伝いをしており、時々別の町にも商品売りに行きます。旅行者が多いときはたくさん稼げるのですが、少ないと生活が苦しくなります。

中所得**「私の名前はテレサです」**

私はモザンビークに住んでいます。この国では法律が十分に整備されておらず、また、17年間も続いた内戦がありました。しかし、私は幸運にも、小さな土地を持つことができました。これは、オックスファムのパートナー団体である地元団体の支援のおかげです。

中所得**「私の名前はシウです」**

私は 50 歳です。漁師としてベトナムで暮らしています。毎日、一生懸命仕事をしています。太陽が昇る前に起きて、小さな船に積み込みを行い、明るくなると港を出ます。いつも大量の魚を水上げて地域の市場で売っており、ここで数人の家族を養うのに十分な稼ぎを得ています。

中所得**「私の名前はソフェアです」**

私は 21 歳です。カナダに住む身元保証人と暮らすためにサイゴンから離れました。しかし、保証人は私を受け入れるつもりがなく、放り出されてしまいました。その後、麻薬を売買するグループに加担させられ、逮捕されて、6 ヶ月間を刑務所で過ごしました。刑務所で英語を勉強し、釈放後はカウンセリングを受け、今では更正施設に住みながら仕事も得ることもできました。

中所得**「私の名前はジュアンです」**

私はドミニカ共和国に住み、小規模なサトウキビのプランテーションを所有しながら家族と暮らしています。サトウキビを育てることは骨の折れる仕事ですが、幸い、私のプランテーションでは従業員を雇うことができました。私たちはこの土地に暮らす人々の平均以上の生活を送っています。

中所得**「私の名前はフランシスコです」**

私はメキシコに暮らす 40 歳の男性で、花を販売して暮らしています。小学 5 年生まで学校に通っていましたが、経済的に余裕がなく中退しました。幼なじみの 1 人が大学を卒業し、花を売る商売を始めたので、その友人を手伝っています。私たちはお互いに助け合っているにもかかわらず、会社の規模が小さく競合も多いため、生活は苦しいです。

中所得**「私の名前はアンドレイスです」**

私は南アフリカの農民です。以前、南アフリカでは、アパートメント法によって住民は強制移住を強いられ、家を出て行かなければなりませんでした。地元団体の支援によって私たちは土地を取り戻し、コミュニティも再構築することができました。今でも多くの困難と闘っていますが、より良い未来を迎えられることを励みにして頑張っています。

中所得**「私の名前はスーザンです」**

私は家族とともにアメリカ、テネシー州のキャンベルで暮らしています。これまで私は高校に通ったことがなく、最近までどんな仕事の現場でも必要になってくる文字の読み書きすらできませんでした。オックスファムが設立した団体から教育と職業訓練を受け、今では在宅医療の仕事をしています。家族を養えるだけの収入を得てはじめて、新しい未来が拓けたと思えるようになりました。

中所得**「私はトシハルです」**

私は福島県で酪農をしていました。東日本大震災に伴う原発事故により、飼育していた乳牛から放射能が検出されたため牛乳の出荷ができなくなり、収入は月数万円にまで落ちました。

中所得**「私はショウケイです」**

大学進学を夢見て 35 歳で中国から日本に渡りました。しかし、進学した日本語学校は過疎化が進む地域にあったため途中で抜け出し、その夢を娘に託して 15 年間働き続けました。独学で日本語を学び、資格も取得し、朝から晩まで働いて、中国に残る妻と娘に送金し続けました。娘は有事アメリカの名門大学に入学し、医者になりました。娘には、自分よりも良い暮らしをさせてあげたいと思っていたからこそ頑張りました。

中所得**「私はスノオクです」**

私はソウルの大学を卒業後、就職するために日本に来ました。数年働いて貯金し、その後、カナダで語学を学びながら働きました。カナダでは、オックスファムのボランティアにも参加しました。韓国に帰国してからは、身につけた英語と日本語を生かして、日系企業で貿易関係の仕事をしています。

中所得**「私はケイスケです」**

私は、茨城県の工場で非正規の職員として勤務していましたが、不況のためリストラにあいました。生活保護を申請しようと思ったのですが、申請には住所が必要でした。工場から提供されていた住居も解雇とともに失ったため、生活保護を申請することができず、派遣労働で働きながら夜はネットカフェを転々としています。

中所得**「私はユイです」**

私は夫と2人の子どもとともに東京に住む53歳の女性です。子どもたちも成長し、手がかからなくなったので、何か世界のためになることをしたいと、都内にあるオックスファム・ショップでボランティアをしています。結婚前に販売の仕事をしていたので、その時の経験を生かして活動しています。公正な社会の実現のためにできることを見つけ、楽しみながら活動しています。

中所得**「私はマモルです」**

私は都内の大学に通う3年生です。実家が貧しかったため、高校を卒業後、2年間デパートで販売員をして貯金をし、大学に入学しました。学費は高いため、奨学金に加えて、週5回家庭教師のアルバイトで賄っていますが、自分の学びたいことを追求できる環境にいることが嬉しいです。

中所得**「私はヘザー イマムラです」**

私はシンガポールで日本人の夫と出会い、数年前に日本に引っ越してきました。家事をする傍らで何か社会に貢献したいと思っていたところ、日本にもオックスファムがあることを知り、その国際ボランティアグループに参加して活動しています。ワークショップやクイズイベントを通じて、啓発活動やファンドレイジングを行っています。仲間とともに公正な社会の実現にむけて活動することが私の生きがいです。

中所得**「私はチカです」**

オックスファムとの出会いは、中学生の時に事務所を訪問したことでした。大学生になり、バイトで得たお金を遊びに使っていましたが、支援が必要な人へ少しでも届けられればと思い、オックスファム・ジャパンのマンスリー・サポーターに申し込みました。定期的に送られてくる活動報告を通じて活動への理解を深めています。

中所得**「私はミサキです」**

私は結婚するまでは看護師として働いていましたが、結婚後は子育てに専念するため退職しました。しかし、夫の会社の業績が悪く、給料が思ったほど上がらないため、最近パートとしてスーパーで働いています。また、夫の母親の介護が必要なため、パートの合間に食事や身の回りの世話をしに通っています。

中所得**「私はアニスです」**

私はバングラデシュから農業を学ぶため、日本の大学に留学しています。日本の農業技術は非常に高いため、その技術を学び、母国バングラデシュの発展に貢献したいと考えています。

低所得



「私の名前はイスマトラーです」

私は 16 歳で、アフガニスタンのカーディー村にある雑貨店の店主として働いています。店を営んで 3 ヶ月になりますが、将来の見通しは明るくありません。以前、村には 300 軒ほどの店が営業していましたが、今では 20 店舗しか存続していません。パスタやラーナソープをどのように売ればよいのか、なかなか見当がつかえません。

低所得



「私はサナです」

40 歳のバングラデシュ人女性です。私の暮らす農村地域では宗教に関するしきたりと文化的な偏見が女性の社会的参加を制限しています。数年前、私は女性グループに参加しました。そこでは、米の脱穀やレンガ作り、乳牛の飼育など小規模ビジネスの手助けをしていたほか、女性の権利を擁護する活動も行いました。今では病気だった子どもは健康になり、夫も家事を手伝ってくれます。

低所得



「私の名前はザバーです」

私は 4 人の息子・娘と、戦争で疲弊したアフガニスタンの、オックスファムの食料配給センターに近い洞窟の中で暮らしています。夫は出稼ぎのためイランを去りましたが、腕を骨折して、仕事はおろか帰ってくることもできない状態です。家長の息子は、2 年ほど前から病気で寝込んでいます。7 歳の娘のゼッバは物乞いをしに、村の近くまで足を運びます。食料もなく、どこまで生きていけるか、私にはわかりません。

低所得



「私はリアンです」

私は平均年収が 200 ドルを下回る、ベトナム北部の農村部に住んでいます。私は土地を持たず、日雇い労働者として働き、わずかな収入を得ています。かろうじて最低限の食料にはありつけ、息子には初等教育のみを受けさせることができている。しかし、娘は学校に行かせることができず、家の手伝いをしてもらわないといけません。

低所得



「私の名前はジェーンです」

私はハイチに住む農民です。オックスファムの支援を受けている小作農組織に所属しています。そこでは、より良い作物の育て方や、灌漑技術を学んでいます。土壌は貧弱で、農具も十分に持っておらず、作物を得ることは簡単ではありません。また、肥料はとて高価です。ただ、支援を受けることができるのはありがたいです。もしかすると子どもの世代では、良い状況になっているかもしれません。

低所得



「私はパンチョです」

漁師を営んでいるフィリピン人です。私の家族は代々漁業で生計を立ててきました。漁業により一家はいつも豊かな生活を送っていましたが、漁業資源の枯渇により収入は減少しています。現在、私たちはかろうじて生きていける程度の食料で生活している状況です。

低所得



「私はラビです」

私はインド西部に位置する、グジャラートの先住民族で、この地域に暮らす大半の人々のように、摘み取り農夫として働いています。政府の法律によって、本来ならば、権利は保証されているはずですが、現実には法律に強制力がなく、差別も厳しいです。昨年、政府に給料と福利厚生向上を訴える集会に参加して、給料を 2 倍に上げることに成功しました。

低所得



「私の名前はデンです」

私はベトナムの小規模農家として生活しています。干ばつの間は作物を収穫することができず、現地の貸金業に月 30~40%の利息を払ってローンを借りなければ生活していくことはできません。

低所得



「私はエンリケです」

私は40歳の男性です。母国グアテマラの内戦が終結後、メキシコの難民キャンプから戻ってきました。政府からは十分な援助を受けられませんが、オックスファムが支援する現地のパートナー団体から、子どものミルク用に牛を提供してもらいました。今も難しい状況ではありますが、新しいスタートを切ることを決意しています。

低所得



「私の名前はンゴゴです」

私は30歳のセネガル人女性です。暴力をふるう夫に離婚を求めています。私の国では、法律と習慣が女性に対して差別的であり、そのため家族を支えられるような仕事を見つけることは難しいです。私は、オックスファムが支援する地元団体から支援を受けています。彼らは小規模ビジネスを設立するための資金の貸し付けを行い、女性の社会進出を後押ししてくれます。

低所得



「私の名前はルーサです」

私はペルーのカシリアリに住んでいます。ウルバンバ川の周辺で数千年にわたり、狩猟・漁業生活を行ってきたマチゲンガ族の一員です。住居の周辺では石油会社による開発が進んでいます。開発によって木材の伐採や水質汚染が起こり、河川や森林から離れたところに住むようになりました。破壊がこれ以上進むと、ここで暮らすことはできません。

低所得



「私はマリアです」

私はジンバブエに住んでいます。私の住む村では長年にわたって雨が降らず、作物が育ちにくい環境にあります。最近、地元のグループがオックスファムから支援を受け、年間を通じて水を浄化できるダムを建設することになりました。私は作物が育ち、家族を十分に食べさせることができる日が来ることを楽しみにしています。

低所得



「私はジュリアです」

私は、家族とともにニカラグアに住んでいますが、私も含め人口の70%が最低限の生活必需品すら手に入れることができません。私は年間430ドル(約3万4千円)の収入しか得られず、牛を育てて作物を栽培していた土地は、小規模農家の天然資源の使用を制限するという政府の施策によって、農業が以前の通りにはできなくなってしまいました。私たち家族は何とか生きのびている状態です。

低所得



「私はミッシェルです」

私は50歳のハイチ人です。ヒツジとヤギの飼育によって、家族を何とか養っています。このあたりでは仕事がなく、夫も出稼ぎに出ているため、ほとんど家にいません。しかし、彼の稼ぎは少なく、子どもと私は貧しい思いをしています。

低所得



「私の名前はチャンです」

私は50歳のカンボジア人男性です。長年続いた内戦のために、これまでに何度も移住する必要がありました。私が今住んでいる場所は、自分の所有していない不法な土地です。また、家屋の周辺には農業ができる土壌がないという大きな欠点があります。

低所得



「私はジュリオです」

私はエルサルバドルの小さな農家です。長年、コーヒーを栽培して中間業者に売っていました。業者は、私に対しわずかな金額しか払わない一方で、莫大な利益を得ています。そこで、最近、私は労働組合に参加しました。組合では公正な価格で私たちの豆を買い入れ、加工し、欧米のバイヤーに販売しています。共に働きかけることで私たちは搾取をなくし、より良い状況に変えています。

低所得**「私はペドロです」**

私は、モザンビークに住んでいます。私の村は、紛争などの人災からも自然災害からもダメージを受けています。最近まで続いていた内戦と、コレラの流行によって多くの人々が亡くなりました。そこで、仲間と一緒にコレラの問題に取り組むことになりました。新しくモザンビークが管轄する水道事業によって建てられた井戸の周りに、フェンスを建設しています。

低所得**「私の名前はアプーバです」**

私はバングラデシュに住んでいる9歳の少女です。バングラデシュでは、少女たちは学校に行けません。少年だけが学校に行くことが許されています。私は家において料理をしたり、兄弟の世話をしたりして、母を手伝わなければなりません。母親や私が外出するときには、父や男兄弟と一緒にではないといけません。私は、早く学校に行けるようになりたいです。

低所得**「私はエリザベスです」**

私の父はフィリピンの農民で、かつてはトウモロコシやヤマイモ、緑豆を育てていました。私は、自分や自分の子どもも同じように生活するものだと思っていました。かつての私たちの農地は現在、大きなサトウキビのプランテーションの一部になってしまいました。私の息子も外へ出て働いていますが、十分な食料が得られずに衰弱しています。私には、息子が生きのびよう祈ることしかできません。

低所得**「私の名前はファリーダです」**

インドの私の住む森はほとんど消滅してしまったため、水を求めて放浪生活を送ることになりました。男性は仕事を探すために遠くへ行くこともあります。オックスファムのプログラムでは、雨水を貯める貯水池を建設する支援をしてくれました。私たちは野菜を育てています。こうした現状が私たち女性と私たちのコミュニティにとって、どれほどの利益をもたらすか、想像もつかないでしょう。

低所得**「私はルトファです」**

家族と一緒にバングラデシュの沿岸地域に住んでいます。私たちは頻繁に、洪水や台風の被害を受けています。1年間で数千人の人々が津波によって亡くなります。オックスファムは、バングラデシュの農村部開発委員会に、サイクロンシェルターを建設するための費用を支援してくれました。次に台風が直撃したときは安全な場所があります。現在、私たちはサイクロンシェルターを学校や集会所として利用しています。

低所得**「私はミゲルです」**

私の家庭はドミニカ共和国の小さなプランテーションで働くサトウキビ農家です。毎日11時間働きます。つらい仕事にもかかわらず、わずかな収入しか得られません。私の夢は、いつの日か自分の農園を持つことですが、将来のための資金は貯まりそうにありません。

低所得**「私の名前はピエールです」**

私は、ハイチに借りていた丘陵地に、借用地の土壌流出を防ぐための木を植えていました。現在は乾期で、作物も育たず、家族が食べるものもありません。近所の人たちは砂糖と土を混ぜた「クッキー」で生きのびようとしています。私は数日の食料とわずかな燃料を節約できる炭を作るため、最後の木を切らなければなりません。今後どのように食べ物を得たらよいか、わかりません。

低所得**「私はファウジアです」**

私はバングラデシュに住んでいます。1日当たり、野外で14時間働くこともあります。その上、夫と息子のために夕飯を作らないといけません。資金を貸し付けするグループに加入し、牛を買うためのローンを受け取りました。現在では息子にミルクを飲ませたり、その残りを販売したりしています。息子も少しずつ健康になってきています。

低所得



「私はシプリアーノです」

私は、ペルーの中でも、とりわけ厳しい気候のアンデス山中に住んでいます。
14000 フィートにも及ぶ高地で、5 頭のラマを飼い、ジャガイモを栽培しています。オックスファムのパートナー団体から、ラマを支援として受取りました。このほかにも、オックスファムから、ラマに与える水を牧草地に引くための灌漑水路を掘る道具の提供を受け、ラマの毛から織物を作るための方法や服を縫う方法も教えてもらいました。

低所得



「私の名前はラモンです」

私はボリビアの高地に住んでいます。数年前まで住民は、ボリビアの人々から卑しい存在だと思われていましたが、現在では、オックスファムのパートナー団体のおかげで伝統文化を復活させ、自分たちの生き方にも誇りを感じられるようになりました。また、パートナー団体は、私たちがより多くの食料やアルパカ、リヤマを飼育するための灌漑水路建設の支援も行っています。

低所得



「私はレベッカです」

以前、私は夫と子どもとスーダンに住んでいました。内戦勃発後は、エチオピアへ逃れ、難民キャンプで生活をしていました。一番幼い子どもは避難の途中で亡くなりました。難民キャンプでの生活は簡単ではありませんが、安全に過ごすことができます。自分の家に帰り、平和に暮らすことができる日が来るように祈っています。

低所得



「私の名前はミーゲルです」

私はフロリダの農民です。給料は最低基準以下で、14 時間は野外で働き、その間、休憩は 30 分しかありません。そして、ストーブもベッドもない会社所有の家にお金を払って住んでいます。私は他の農民仲間と労働組合をつくり、労働環境を改善し、不当な賃金を上げるように働きかけています。しかし、雇い主が農業労働者同士で組合活動を行うことを嫌うため、解雇される恐れがあります。

低所得



「私はエイディスです」

私はエチオピアのリフトバレーに住んでいます。夫が亡くなり、私一人だけで 7 人の子どもを養っています。この地域は干ばつのために水や食料を得ることが困難です。子どもたちは頻りに病気になります。最近、残り 3 匹だったヤギを全て売りました。もう売ることがないため、現状が良くなることを祈るばかりです。

低所得



「私はテインタンです」

ビルマで生まれた私は、学生時代に民主化運動に関わったことで政府に追われるようになり、24 歳の時に日本に亡命してきました。
今は難民申請をしていますが、認定結果を受けるまで平均 2 年かかるほか、その期間中は仕事をする事ができません。幸いにも、多くの日本人と日本に住むビルマ人の支援を受け、何とか生活することができています。

低所得



「私はワンです」

私は、7 年前に中国から妻と来日し、群馬県の工場に働いていました。しかし、会社が倒産し失業したため、何とかアルバイトで食いつないでいたのですが、それすら失ってしまい、挙句の果てに、妻からは離婚を要求され、私はアパートを出ました。日本語が十分話せないですし、住所や連絡先もないので、仕事は見つかりません。

低所得



「私はユウスケです」

私は以前、大手企業の役員として働いていました。日本の経済成長を支えたのも私たちの年代です。ある時、早期退職の勧告に何となく応じてしまいました。すぐ再就職できるであろうと思っていたからです。しかし、自分には特別なスキルもなく、再就職活動は上手くいきませんでした。今では家もなく野外で生活をしています。

低所得



「私はトモオです」

現在、私はホームレスです。元デパートの外商部長で、その後、ブティックを経営していましたが、事業に失敗してしまいました。そのせいで妻との関係が悪化したことも原因となり、家に帰らなくなりました。もう全てが嫌になりました。家族関係が良ければホームレス生活をする必要がなかったと思います。

低所得



「私はビセンテです」

私はモザンビークのナンプーラ州に住んでいます。先祖代々使っていた土地が外国企業に買収され、本来なら休ませるべき農地にも作物を植えなければなくなり、収穫は減りました。以前は、1日3回食べることができていましたが、今は、1日1回しか食べることができません。売れるものもなく、子どもたちを学校に行かすこともできません。土地を奪われたと同時に私たちの生活そして人生も奪われたのです。

低所得



「私はスミコです」

私は岩手県に息子と住んでいます。夫はお酒に酔うと暴力をふるうため、子どもの将来のことも考えて、夫とは別居しています。東日本大震災後、パートとして働いていた仕事を失いました。政府からの義援金は登記上の世帯主である夫しか受取れないため、私たちの手元には一銭も入ってきませんでした。オックスファムの現地パートナー団体から義援金を受け取り、やっと、子どもたちのために使うことができました。

低所得



「私はダイスケです」

東京で設備機器の営業をしていました。会社からの研修もほとんどなかったにもかかわらず、ノルマが多く、ついには体調を崩してしまいました。会社を休んだところ、解雇を通告されました。今は、早く病気を治して、再就職したいと考えています。

低所得



「私はジョアンナです」

私はガーナに住んでいます。農場で働いていましたが、外国企業の土地取引の影響で仕事を失い、収入がなくなりました。土地取引について事前の説明も事後の補償もなかったため、抗議をしたところ地元の警察に逮捕されてしまいました。

低所得



「私はヒデアキです」

31歳の男性です。1年程前に、コンピューター関係の仕事うつ病で辞めてしまいましたが、実家に住みながらも台所を使わせてもらえませんでした。家族関係が良くなかったため、家にいながらも飢餓状態になりかけてしまいました。貧困問題を扱うNPOへ相談に行ったことにより、少しずつ状況は改善されてきています。

低所得



「私はジュンです」

私はホームレス支援の雑誌を路上で販売して生活しています。高校卒業後、地方都市から東京に出てきて、有名メーカーの下請部品工場で派遣社員として働いていました。これまで10社以上の工場で働き、契約が切れてもすぐに仕事が見つかりましたが、最近は仕事を見つけることも難しくなりました。1日も早く、この状況から抜け出したいと思っています。

低所得



「私はヨウコです」

私は、夫の家庭内暴力から逃れるため、夫と離婚しました。頑張って働いても収入は少ないため、いくつかの仕事をかけもちして、生活を切り詰めながら子どもを育ててきました。飲みに行くと憂さ晴らしをすることもできず、公園で泣いたこともあります。本当に今の状況は苦しく、これ以上、何を頑張ればよいかわかりません。

高所得



「私はリキトです」

私は日本のイベント運営会社で働いています。高校卒業後に大学への進学を希望していたのですが、入学金などの支払いが難しいことと、家族を支えたかったために就職という進路を選択しました。夏休みなどに帰省する大学に通う友達に会う学生生活がうらやましく感じます。

高所得



「私はサキです」

私は日本の東京に住んでいます。大学を卒業したのですが、希望していた企業の総合職に就職することができず、派遣の仕事が続けてなんとか生計を立てています。宿舍付きの派遣で働いていたのですが、先日、雇用延長はないと言われ、宿舍からも出ていかなければならなくなりました。貯蓄も少なく、敷金や礼金などの転居の初期費用を支払うことは難しかったので、ネットカフェで生活を続けています。

高所得



「私はカナです」

私は女子高の3年生です。私の家は日本の中でも裕福な家庭ですが、父の発言が強く何をしても父の同意が必要です。私は東京の大学に行き、将来的にはファッションにかかわる仕事をしたいのですが、父が反対していて地元の女子大以外の進学が難しい状況です。自分の人生にもかかわらず、自分で選択できないことにストレスを感じています。

高所得



「私はユタカです。」

私は日本で農家をしています。気候変動の影響で大型台風が数多く来襲し、農作物は壊滅的な打撃を受け、収入は激減しました。丹精込めて育てた農作物が失われるのはつらいです。しかし、国の農業災害補償制度を利用し、最低限度の補償を受け取ることができました。

高所得



「私はユイナです」

私は日本に住んでいます。大学在学中に付き合っていた男性との結婚を両親に認められず、家を出て大阪で生活をしています。その人との間に娘が生まれましたが数年後に離婚をしました。地元には託児所が少なく、仕事と育児を両立することは非常に困難です。

中所得



「私はザカリアスです」

私はフィリピンで農業を営んでいます。主にココナッツを育てて生計を立てています。フィリピンでは、コメやサトウキビと並んでココナッツは主要な農作物の一つです。私には3歳の息子がいます。裕福とは言えないまでも、家族と共に生活する時間を大切にしています。

低所得



「私はママタズです」

私はバングラデシュに住んでいます。夫は漁師でしたが、気候変動による悪天候により漁の最中に命を落としてしまいました。それにより一家の収入は減少してしまいました。現在は息子が漁を引き継ぐことで家族を養っていますが、悪天候は続いており息子の帰りが気がかりです。

低所得



「私はマルティナです」

私はウガンダで先祖から受け継いだ土地で家族と住んでいます。私は3歳の子どもが一人います。近年の気候変動の影響で水や食べ物が十分に得ることができなくなりました。村の人々は呪いのせいだとお互いに責め立てています。幼い息子の成長だけがががかりです。